

# LaTeX による予稿作成方法

## How to Prepare a Proceedings using LaTeX

専攻 太郎 (Taro Senkoh)

〇〇工学専攻 (長岡 高志 教授, 悠久 清花 准教授)

acproceedings is the LaTeX document class for Thesis Work proceedings. It is based on the jlreq class and supports pLaTeX, upLaTeX and LuaLaTeX. This document is a sample document that also explains how to use it. Please use it as a template as it is. Templates for Microsoft Word are also available.

**Keywords:** Thesis Work, proceedings, LaTeX, jlreq

### 1. はじめに

acproceedings は専攻科特別研究予稿用の LaTeX 文書クラスである。jlreq クラスをベースとしており、pLaTeX, upLaTeX, LuaLaTeX をサポートしている。ここでは、LaTeX による予稿作成方法を説明する。また、ソースファイルの acproceedings-sample.tex は、そのまま、テンプレートとして利用できる。LaTeX ではなく Microsoft Word 用のテンプレートも用意されているため、自分の好みに合わせて選択するとよい。

### 2. 動作要件

acproceedings の動作要件は、

**TeX フォーマット** LaTeX 2<sub>ε</sub>

**TeX エンジン** pLaTeX, upLaTeX, LuaLaTeX

**依存クラス** jlreq

**依存パッケージ** expl3, xparse, l3keys2e

のように、なっている。pLaTeX, upLaTeX 利用時には、plautopatch パッケージを自動で読み込む。本文書クラスの推奨環境は **TeX Live 2018 以降** である。

### 3. 使い方

本文書クラスでは、一般的な LaTeX コマンドや環境を利用できる。レイアウト設定に影響しないコマンド等でなければ、基本的に自由に利用して構わない。

#### 3.1. クラス宣言

以下に示すように、使用エンジンと DVI ウェアをオプションで指定し、acproceedings を宣言すればよい。また、fonts=... と指定することで、フォントを設定できる。指定できるフォントを以下に示す。

**default** 未指定の場合この設定になる。原ノ味フォントと Times 系フォントで構成される。

**ms** MS フォントと Times 系フォントで構成される。MS フォントと HG フォントがインストールされた環境で動作する。

**word** LuaLaTeX 専用で、MS フォントと Times New Roman で構成され、Microsoft Word と限りなく近い見た目になる。MS フォントと HG フォントと Times New Roman がインストールされた環境で動作する。

**no** フォントの変更は行われず、jlreq のデフォルトフォントとなる。

macOS や Linux を利用している場合は default を、Windows を利用している場合は ms か word を選択するとよい。

他にも、のどを無くす nogutter やキャプション等を日本語にする japanese も指定できる。基本これらは指定しない。

#### 3.2. タイトルについて

本文書クラスではタイトル設定用に、以下のコマンドが容易されている。このソースファイルを参考に適宜書き換えるとよい。

**\titleJP** 日本語タイトル

**\titleEN** 英語タイトル

**\authorJP** 日本語著者名

**\authorEN** 英語著者名

**\major** 所属専攻

**\supervisor** 指導教員

**\abstract** Abstract (LaTeX 通常の abstract 環境は廃止してある)

**\keywords** キーワード

**\program** プログラム番号 (ページ番号用)

3.3. 数式について

数式を使う場合は `amsmath` パッケージを読み込むべきである. 文章中に  $E = mc^2$  のように数式を記述したり, 別行立てで,

$$E = mc^2$$

(1)

のように記述できる. もちろん  $\alpha$ ,  $\leq$ ,  $\Re$  のように記号等も使える.

3.4. 図について

図の挿入は `graphicx` パッケージで行う (Figure 1). 図のキャプションは図の下に置く.

3.5. 表について

表組みももちろん利用できる (Table 1). 表のキャプションは表の上に置く. この表では, 表内の文字サイズを `small` に設定している.

3.6. 参考文献について

`thebibliography` 環境で参考文献を書く. デフォルトでは**参考文献**となる. 他の文字列に置き換えたい場合,

`\renewcommand{\refname}{引用文献}`

のようにすればよい.

4. ダミーテキスト

4.1. いろは

いろはにほへとちりぬるをわかよたれそつねならむうるのおくやまけふこえてあさきゆめみしゑひもせす

4.2. 寿限無

寿限無寿限無五劫の擦り切れ海砂利水魚の水行末雲来末風来末食う寝る処に住む処藪ら柑子の藪柑子パイポパイポパイポのシューリンガンシューリンガ

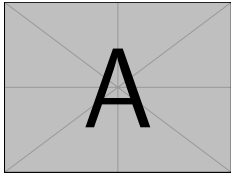


Figure 1 This is an example of figure insertion.

Table 1 This is an example of table insertion.

Name	RGB
Cyan	rgb(0, 255, 255)
Magenta	rgb(255, 0, 255)
Yellow	rgb(255, 255, 0)

ンのグーリンダイグーリンダイのポンポコピーのポンポコナーの長久命の長助

4.3. 吾輩は猫である

吾輩は猫である。名前はまだ無い。  
どこで生れたかとうと見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一番憐悪な種族であったそうだ。この書生というのは時々我々を捕えて煮て食うという話である。しかしその当時は何という考もなかったから別段恐いとも思わなかった。ただ彼の掌に載せられてスーと持ち上げられた時何だかフワフワした感じがあったばかりである。掌の上で少し落ちついて書生の顔を見たのがいわゆる人間というものの見始であろう。この時妙なものだと思った感じが今でも残っている。第一毛をもって装飾されべきはずの顔がつるつるしてまるで薬缶だ。その後猫にもだいぶ逢ったがこんな片輪には一度も出会わした事がない。のみならず顔の真中があまりに突起している。そうしてその穴の中から時々ぷうぷうと煙を吹く。どうも咽せばくて実に弱った。これが人間の飲む煙草というものである事はようやくこの頃知った。  
この書生の掌の裏でしばらくはよい心持に坐っておったが、しばらくすると非常な速力で運転し始めた。書生が動くのか自分だけが動くのか分らないが無暗に眼が廻る。胸が悪くなる。到底助からないと思っていると、どさりと音がして眼から火が出た。それまでは記憶しているがあとは何の事やらいくら考え出そうとしても分らない。  
ふと気が付いて見ると書生はいない。たくさんおった兄弟が一疋も見えぬ。肝心の母親さえ姿を隠してしまった。その上今までの所とは違って無暗に明るい。眼を明いていられぬくらいだ。はてな何でも容子がおかしいと、のそのそ這い出して見ると非常に痛い。吾輩は藁の上から急に笹原の中へ棄てられたのである。

参考文献

1) W3C 日本語組版タスクフォース. 日本語組版の要件. <https://www.w3.org/TR/jlreq/>, (参照 2021-10-22).